

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 02 月 15 日作成)

小委員会名	建築音響測定法小委員会		主 査 名：赤尾伸一 就任年月：2005 年 04 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (音環境運営委員会)		委員長名：井上 勝夫 主 査 名：大鶴 徹
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ISO 10052 についてスクリーニング試験としての適用の可能性を検討する。 ・ 実騒音法による窓サッシの遮音性能測定について検討を行う。 ・ 板のインピーダンス測定法の検討を行う。 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：なし 赤尾伸一(三井住友建設)、宮島徹(清水建設)、山内崇(戸田建設)、石渡智秋(永田音響設計)、井上貴美子(NHK技術局)、古賀貴士(鹿島建設)、坂本慎一(東大生研)、杉江聡(小林理研)、高橋央(ベターリビング)、坪井政義(大林組)、浜田幸雄(日本大学)、平光厚雄(独 建築研究所)、村上剛士(日総試)、矢野博夫(千葉工大)、吉村純一(小林理研)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2007 年度予算	51,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	7 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	2007 年度大会 (九州) にて検討成果をまとめ 3 編の発表を行なった。
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1 . ISO10052 : 実験データを基にした検討を行い予定を達成した。 2 . 実騒音法 : 既往の文献調査などを行い予定を達成した。 3 . インピーダンス測定法 : 実験データを基にした検討を行い予定を達成した。
委員会活動の問題点・課題	なし

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2007 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>1. 短時間測定法 ISO10052 に関する検討 これまで行った実験室、現場における測定データを精査し、スクリーニング試験としての適用の可能性について検討した。</p> <p>2. 実騒音法による窓サッシの遮音性能測定方法の検討 道路交通騒音を音源とした遮音測定方法について、既往の文献調査を行い実務利用の可能性について検討を行った。</p> <p>3. 板のインピーダンス測定方法の検討 これまで行った実験室における測定データを精査し、測定方法の妥当性の検討を行った。</p> <p>・上記の成果をまとめ、2007 年度大会(九州)にて以下 3 編の発表を行った。</p> <p>1. 現場における遮音性能の簡易測定法の検討 その 1 ISO 10052 におけるマニュアルスキャンによる室内平均音圧レベル測定</p> <p>2. 現場における遮音性能の簡易測定法の検討 その 2 ISO 10052 による実騒音を用いたサッシの現場遮音測定例</p> <p>3. 駆動点インピーダンスの測定方法に関する検討</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。